

科目名	社会調査の基礎			ナンバリング	SOC221	授業形態	講義
対象学年	1	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	坂田勝彦	担当教員					

授業の概要	この授業では、現代社会における社会調査の意義を理解し、質問紙調査や聞き取り調査などの基本的な考え方を習得することを目的とする。「なぜ社会調査が必要なのか？」を知るために、その歴史をふりかえるとともに、官庁統計、世論調査、学術調査などの実例を数多く紹介する。また調査を行う際の注意点(調査倫理)や、「無駄な調査」をしないために既存資料の活用術についても理解する。この授業では、市民社会を生きる人間として必要な「調査リテラシー」を身につけ、調査データを読みこなす能力を高めることを目標とする。						
到達目標	1. 社会調査の基本的な用語を理解することができる。 2. 社会調査のさまざまな方法について、その特徴を理解することができる。 3. 新聞などで発表される世論調査に関して、その妥当性について検証することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	各授業において、教科書の関連する箇所を事前に読んでおくこと。授業終了後は配付資料をもう一度読み、授業を振り返ってポイントを整理しておくこと。						
ディプロマポリシーとの関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 社会調査における基本的な概念を理解することができる。 2. 社会調査におけるさまざまな調査方法について理解することができる。 3. 基礎的な統計上の概念について理解することができる。 4. リサーチリテラシーについてその考え方を理解することができる。	1. 社会調査における基本的な概念を理解し、その上で調査報告書などを読むことができる。 2. 社会調査におけるさまざまな調査方法について理解し、報告書を批判的に読むことができる。 3. 基礎的な統計上の概念について理解し、実際に分析することができる。 4. リサーチリテラシーを習得し、実際に行われた世論調査の誤りを指摘することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
学期末試験	○	○			○		55%
授業外小課題	○	○			○		25%
授業態度・授業への参加			○	○			20%
出席			○	○			加点はしない。欠席は減点となる。

課題、評価のフィードバック	1. 学期期間に2～3の課題を課す。添削して返却する。再課題を課すこともある。 2. 学期末にテストをおこなう。授業中にテストを実施し、希望者には後日、テストを返却する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	講義の進め方、受講に際しての注意点について理解する。授業支援システムの使い方について解説する。	
	第2回	社会調査の歴史	これまで社会調査が発展してきた歴史を学ぶことで、社会調査の重要性について解説する。	
	第3回	社会調査とは何か、社会調査に何ができるのか	社会調査の目的と意義について、社会学理論とデータとの関係から解説する。	
	第4回	仮説を作成する	社会調査において作成することの重要性について解説し、実際に仮説をつくることができようにする。	
	第5回	問題の設定と社会調査の技法	さまざまな問題設定に対してどのような調査技法があるのかを、いまに行われた古典的研究に即して解説する。	
	第6回	社会調査のプロセス	問題設定からデータ収集、データの分析、報告書の執筆に至る一連の過程について解説する。	
	第7回	既存資料の整理(1)	既存資料の整理の意味するところを解説する。	
	第8回	既存資料の整理(2)	官庁統計や世論調査の読み方利用の仕方について、それを用いて作成された一連の業績を紹介することで解説する。	
	第9回	聞き取り調査の方法(1)	聞き取り調査の意義・目的・方法について理解できる。その他、さまざまな質的調査の方法について解説する。	
	第10回	聞き取り調査の方法(2)	聞き取り調査の実践的な方法について、またライフヒストリー研究の意義について解説し、実際に調査することができるようにする。	
	第11回	サーベイ調査の方法(1)	調査票調査について、企画立案からデータ作成までの一連の過程について解説する。	
	第12回	サーベイ調査の方法(2)	平均や標準偏差など、統計データの簡単な数量的理解ならびに処理ができるようにする。	
	第13回	サーベイ調査の方法(3)	クロス表を読み、それにもとづき結果と考察のまとめ方について解説する。	
	第14回	社会調査のウソ／社会調査の倫理／授業のまとめ	調査リテラシーの習得のために事例を紹介し、その上で社会調査をおこなう上で欠かせない調査倫理について解説する。	
	第15回	まとめ	今までの授業の理解度を確認する。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に講義をし、それに対する質疑応答をおこなう。授業に関連する課題を4つ程度出す。		
授業外学習の指示		配付資料ならびに教科書を中心に講義の内容を復習する。余裕があれば、次回の講義に対応する教科書の該当箇所を読み、概要を理解しておく。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	なし
参考書	小林修一ほか編『テキスト社会調査』梓出版（2005年）、好井裕明ほか編『社会学的フィールドワーク』世界思想社（2004年）
参考URLなど	
その他	